

(様式1)

視 察 報 告 書

令和5年6月29日

鳥取市議会議長 西村 紳一郎 様

鳥取市議会建設水道委員会
委員長 勝田 鮮二

本委員会は、下記のとおり委員を派遣し、行政視察（調査）を実施したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

1 期 間	令和5年5月23日から令和5年5月25日まで
2 派 遣 先 及び視察 (調査) 内容	<東京都> ○インクルーシブ公園（砧公園みんなのひろば）について ・現地視察 <千葉県浦安市> ○液状化現象による下水道施設への影響について ・被害について ・復旧に向けた取組について ・対策と課題について <千葉県> ○液状化現象による上水道施設への影響について ・被害について ・復旧に向けた取組について ・対策と課題について <埼玉県川越市> ○歴史まちづくりについて ・川越市歴史的風致維持向上計画について ・現在の取組と成果、課題について
3 派 遣 委 員 の 氏 名	勝田 鮮二、加藤 茂樹、水口 誠、雲坂 衛、 足立 考史、魚崎 勇、太田 縁
4 委 員 会 所 見	別添のとおり
5 参 加 者 所 見	別紙のとおり

東京都	<p>○インクルーシブ公園（砧公園みんなのひろば）について</p> <ul style="list-style-type: none">・障がい児の生活サイクルの中、この様な遊び、学べる公園で驚き、喜ぶ姿に保護者も一緒になって喜んで過ごしていると聞いた。今後、本市にもこの様なインクルーシブ公園を小規模でも設置していく必要があると感じた。・本市で、仮にインクルーシブに関する遊具の導入や更新整備を検討する際、利用者の視点だけでなく、周辺住民との説明会や、ネットワークの強い支援団体等の連携、イベント企画の際の環境等、横断的かつ総合的に考える視点、そして鍵となる運営者の御努力が、今回の視察で大変参考になった。・福祉の充実を重点目標としている本市において、多様性を認め「誰も取り残すことのない社会」にするためには、ユニバーサルデザイン・バリアフリー化を推し進め、安心して産み育てられる環境整備の拡充にインクルーシブ公園の設置は必要と考える。この度の先進地の視察によって、鳥取市内・東部地域にも設置すべきと強く思った。・公園の施設を利用し、地域の方を招待してのイベント開催やその時に制作された作品を展示し、地域の皆さんに公開するなど様々な取組をされており、利用していただくだけでなく、利用者との交流も企画されており、利用者の目線で考えられ、また来たいと思って帰っていただけるような工夫や配慮に感銘を受けた。・鳥取市民からもインクルーシブ公園の設置要望の声は高い。東京都のガイドラインや予算制度を参考に、鳥取市ばかりでなく、鳥取県内の他の自治体にも広まるとよい。鳥取県と協力しながら鳥取市にインクルーシブ公園の開設を望む。
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

千葉県
浦安市

○液状化現象による下水道施設への影響について

・行政には、いつ起こるか分からない災害から市民の命と財産を守る使命・責務がある。今回視察先が実際に経験され、復興された経験を学び、本市のこれからの国土強靱化、地震対策の勉強になった。

・人材育成や技術職採用、事業者の協力体制が重要であり、日頃からの対応訓練などが必要であると感じた。

・鳥取市の下水道管は耐震化が推進されているが、液状化被害は下水管だけではなく、建物の傾倒、道路の盛り上がりやねじ曲がりなどによる通行障害など多様である。市役所周辺の千代川旧河道域の液状化対策は施されておらず、広域な鳥取市域には多くの危険が隠れている。地盤調査を行い、鳥取市の脆弱性を把握して市民の命と財産を守るための対策を施すことが急務だと痛感した。

・復旧の際、大規模災害の施工業者不足を指摘され、広域で災害協定を結ぶ以上に、地域経済循環や公共的な観点等から、日頃協力的な地元事業者の育成や連携についても、今後の重要な課題だと考え、調査研究の必要性を再確認できた。

・浦安市は市域の4分の3が埋立地であり、東日本大震災での液状化現象により、ガス、上下水道被害が発生している。復旧には、埋め戻しに安定改良土を製造して転圧、マンホールと本管及び取付管には、接続に可とう管継手を使用しており、検討がうかがえる。今後本市でも、埋立地のライフラインには建設に注意が必要と考える。

千葉県

○液状化現象による上水道施設への影響について

・過去の大規模災害を教訓に、いつ発生するか分からない災害に対して行政がすべきこと、個人がすべきことがあると思う。行政の責務は市民の命と財産を守ること。そのためには、あらゆる状況を想定した対策を講じて、まずはライフラインの復旧が優先できるように再点検すべきと思う。

・危機管理体制の充実として、①関係団体と災害時における水道復旧活動に関する協定を締結、②関係団体と耐震対策総合訓練を連携して実施、③所属で行うテーマ型訓練（例：給水車への注水訓練）など、実践的な訓練の実施、④給水地域内の市との協議や意見交換を通じた連携強化（合同訓練）を実施しているとのことだった。危機管理体制の強化、管路耐震化の推進、復旧用資材の備蓄など、本市としても同様の施策を進めていく必要があると感じた。

・海の岸壁からの給水支援は参考になった。本市は他市や県と備蓄協定を締結しているが、災害時対応できるよう見直しも必要と感じた。

・千葉県企業局水道部と鳥取市水道局では水道企業規模はもとより、財政・人的にも規模は比較にならないほど大きい。しかし水道事業者が行わなければならない災害対策、行政が行う政策、市民が災害に備える意識は規模が異なっても基本は変わらない。災害の教訓を人々に伝えることは容易ではなく、ましてや未経験の次世代へ繋いでいくことはさらに難しい。国の基準類も整備されてきているが、そこに記されていることが具体的にどのような災害実態に基づいて定められたものかは、現場を知らないと理解できない部分が多いのではないかと痛感した。

埼玉県
川越市

○歴史まちづくりについて

・鳥取市は、鳥取大火で多く建物が焼失し、あまり歴史的建造物は残っていないが、残った建物をできるだけ残していくことも歴史を語る上で必要なのかもしれない。

・本市の観光まちづくりとしてみれば、歴史的建造物はかなり失われており、伝統的建造物群と成り得ず、同様の手法は難しいと感じた。歴史を遡り、神話時代の大国主命、八上姫、白兔神話を題材にしたストーリーをもとに、埋もれている文化資源を発掘活用し、活性化につなげてはと考える。

・本市にも、街なみ環境整備地区の鹿野町、鳥取城周辺の整備等があるが、川越市のように集客をセットで考え、文化財保存だけでなく市全体としての盛り上がりが必要と感じた。

・所有者と活用主体の架け橋や、民間主導の資金調達方法の検討、歴史的建造物の構造上・防火上の性能等を充足する独自の制度の導入は大いに参考になる。

・旧市内や新市街地を含め、歴史的資源を利用した取組として、これまでに何度も放映されているNHK大河ドラマの戦国時代に出てきた武将に関わった名城として名を残している鳥取城跡を生かした観光ルートや周辺整備をして観光しやすい街並みになればと期待する。